

《各学年の特徴》

5年 初めての家庭科の学習に対して、積極的に取り組む児童が多い。調理や裁縫の実習に関しては、実習計画を立てて取り組み、各自のめあてや班活動における役割分担が明確になっていた。包丁の持ち方や食材の切り方、裁縫道具の使い方などの基礎的・基本的な技能を習得しようと積極的に取り組むことができた。また、家庭で簡単な調理や裁縫に取り組むなど、生活に生かしていく姿が見られた。その一方で、実習の時間を十分に確保できなかったため、技能が定着していない児童もいる。

6年 生活経験が基になる教科であることから、単元の内容によっては、身近に感じて取り組みやすい活動も多い。その一方で、日頃から習い事等で家事に関わるのが少なく、初めて学習する児童が多いのも現状である。ミシン縫いや手縫いする活動では、技能面で個人差がある。調理実習や実技学習（ミシン）では、夢中になって活動し、活動意欲の高い教科である。

育てたい力（課題）

5年 生活経験から問題を見だし、自分なりの課題を設定する力
目的に応じた方法を考え、工夫したり、改善したりする力

6年 生活経験から問題を見出し、課題を設定し、解決していく力
生活をよりよくするために、学んだことを生かしたり、創意工夫したりする力

☆授業改善の具体策☆

- ・学習環境の整備 ・単元計画の工夫（PDCA サイクルの実現）
- ・家庭との連携 ・ICT 機器の活用 ・日常生活との関連化
- ・ホワイトボードの活用 ・ワークシートの活用 ・グループ活動

《知識及び技能》

5年 調理や裁縫、ミシンを使った実習では、ICT 機器を活用して手順を示す。実習による体験的な活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を定着させる。

6年 5年で習得した知識を活用して、日常生活との関連を意識させる。学習活動で学んだことについて、学校生活や家庭生活に生かす場面を設定する。

《思考力・判断力・表現力等》

5年 児童が生活の中で問題を見だし、課題解決に向かって取り組めるように、必要感をもたせられる課題を設定する。多様な解決方法を考えられるよう、学習形態を工夫する。

6年 自分の生活経験と関連付け、日常生活の中から問題を見い出すようにする。学習単元の計画の見通しをもたせ、計画を実行し、振り返る活動を通して、学んだことを伝え合い深めていくための学習形態を設定する。

《学びに向かう力》

5年 家庭生活や SDG s への関心を高め、衣食住を中心とした生活の大切さを実感できるように、家庭と連携し、学習したことを生活に生かす場を設定する。

6年 家庭生活をよりよくしていく視点で、生活の中から課題を明確にする。家族や地域の人々との関わりを大切にする心情を育み、生活をよりよくしようと工夫するために、家庭との連携を図り自己の生活を振り返る時間を確保する。